

2024 年度 1 回目 学校関係者評価委員会報告書

1. 日時 令和 6 年 11 月 11 日 10:00~11:30
2. 場所 日本児童教育専門学校 A23 教室
3. 委員等氏名及び所属

【委員長】

花村 嘉信 株式会社 NOTCH 代表取締役

【委員】

中嶋 雄一郎 社会福祉法人つぼみ会 ライフスクール 理事長

野村 美奈 社会福祉法人武蔵野会 リアン文京 施設長

太田 紗由理 公益社団法人児童育成協会 港区立麻布子ども中高生プラザ

小畑 陽平 学校法人仙台北学園 仙台リハビリテーション専門学校 副校長

諏訪 丹美 公益社団法人新宿未来創造財団 地域子ども部子ども担当 参事

【陪席】

阿久津 摂 日本児童教育専門学校 副校長

鈴木 八重子 日本児童教育専門学校 教務部長・総合子ども学科学科長

東郷 結香 日本児童教育専門学校 保育福祉科学科長

【事務局】

佐藤貴彦、谷村明門、石橋充、武田眞祐美

◆議事要約◆

1、校長挨拶

阿久津校長より、今年度から単独開催になった経緯とメンバー選出について説明した。

2、委員の紹介

出席者を紹介し、自己紹介して頂いた。

3、委員長代理挨拶

川田委員長代理より、進行役を務めること。本日の流れについて説明した。

4、本校の教育理念・教育目標を紹介

阿久津校長より、教育理念・教育目標と 3 つのポリシーについて説明した。

川田委員長代理 学生さんは一年目に身近な現場に見学するとのことですが、その見学先は学生さんご本人が決められるのですか？それとも先生がここがいいよとご紹介するのですか？

阿久津 連携している団体さんから受け入れ可能な園や保育方針などをお知らせ頂き、その中から行きたい園を学生が選びます。取り組みを始めたころにはうまくいかないこともありましたが、一人ではなく二人にしたり色々と工夫をしました。

5、本校学生の特徴を紹介

各学科長より、本校学生の特徴について紹介した。

中嶋委員 いろんな方がいらっしゃるという事で、新卒だけで成り立っていたようなところがありましたが、色々な経験を踏んでこられた方が入ってきてくれることで新卒のアドバイスをしてくれたりとか、先ほども独自の考えを持った方というお話もありましたが、独自の考えというのが僕はすごく好きで、保育の現場が画一的だったのがすごく幅が広がってすごくいい環境になってきています。我々は定年を 70 歳までに引き上げまして、年配の方でチャレンジしたい方がいれば是非ぜひと思っています。

諏訪委員 色んな生活パターンに合わせて授業日程が組まれていてすごくびっくりしました。私共もアルバイトで募集しますと、男性の方でお仕事が終わって近所の子どものためのになりたいという方もいっぱいいらっしゃると思いますので、阿久津先生がおっしゃったようにこれからこういう所に行きたいなという方がいらっしゃるんじゃないかなと思ひまして、これどれくらいの人数の方がいらっしゃるのかなあと楽しみにになりました。

小畑委員 色んな層がいるんだなという所がすごく特徴的に思いました。あと就職先のところで児童養護施設に就職する方々も多いんだなとびっくりしました。やはり保育園で就職するのかなと思っていたのですが、ニーズが多くなってきているんだなという所が印象的でした。

川田委員長代理 実際に学生さんとお会いする機会を頂戴して感じてしたのは、年齢のミックス型と言いますか新卒の方が大人の方と会話をする機会というのでしょうかそういったところでコミュニケーションにとってもプラスになる編成だなと思いました。クラスごとに特徴があつてすごく大人だなと思う職業訓練生のクラスだとかそれぞれクラスの雰囲気も良いですしそういった意味で今後、何か保育に興味を持たれた方が入りやすい、学びもしながらお仕事もしながらという所で学びやすい学校だということを皆さんに知っていただけたら嬉しいなと個人的に思います。

6、保育業界を盛り上げる為に

①石橋より、定員充足、中退率について説明した

②谷村より、就職状況について説明した

7、意見交換

川田委員長代理

ここからは今までご説明を頂戴した中で、日本児童教育専門学校さんの運営状況ですとか、教育活動における点、あるいは学生募集に関する件ですとかこういった点も含めまして、貢献できてるなど評価できる点とか反対にこういったところは改善が必要ではないでしょうかというような点を踏まえまして、ご意見を頂戴したいと思っています。

中嶋委員

我々保育所側というか就職先側も保育士の獲得で非常に苦労しています。多分東京都で4倍弱くらいですね昨年の有効求人倍率は。先ほどお話があったように学生さんの 70%くらい保育士を目指す方が減っている。この辺は保育士の給料が安いとか色々な不適切保育でクローズアップされてきつとかその辺のイメージが大分処遇改善費だとかで給与の方はかなり改善されてきているかなと思うので、一緒になってどうにかして保育士さんを増やしていくってことをやっていかなくてはならないのかなと思います。コロナ禍の影響で中学生の職業体験がなくて減ったんじゃないかといった噂を聞いたんですが、こちらの学校さんではどういった要因として捉えているのか教えていただけますか？

石橋

私が勤務して長くないというのもあつて歴代の流れが分からないというのもあるんですけども、おっしゃる通り職業体験をしていなかった影響も少なからずあると思いますが、数字が出せない部分がありまして、今来て

いる学生の中にも職業体験してよかったからという声が一定数あるのも確かです。あと大きいのは大学と比較してその部分が大きいかなという所ですね。ニュースとかがあると影響されます。来ていただくと、先ほど中嶋さんのおっしゃった待遇の改善とかがお伝えできているんですけど、来ていただくまでのところで奮闘中です。

中嶋委員

中退のところで我々に責任のあるところもあって、先ほど実習の話もされていたかと思うんですけども、昔10年前くらいですかね修業的な感じの世界だったんですけども、いろんな需要と供給のバランスの問題みたいなところもあって、勤務状況なども改善されて定時で帰ることも当たり前になってきて、実習の方も僕が会社で言うのは、実習が終わってやっぱり保育士になりたいなと思ってもらえるように実習生の方々を迎えてくださいと言っています。

阿久津

一つ先ほどの中学校の体験がなくなってという話は私も聞きました。この間、全国保育士養成協議会の懇談会の特に九州の大学様とお話をしても短大さんですけど2校が閉校されるというお話を聞いて、いろんな要因があるし、地域によって人口がそもそもいないので学生さんがいないということもあるんですけど、やっぱり中学校・高校の時にその少ない学生さんでも体験学習でアプローチが出来た。すごくいい印象をもってくれた層がごっそりなくなったのが非常につらいとおっしゃっていたので、数字には出ていないですけど色んな所でお聞きしています。

石橋

数字の点で、保育業界の前年比の70%です。70%減ではないです。

諏訪委員

総合子ども学科には高校卒業の方がいらっしゃるんでしょうけれども、先ほども申し上げた色んな時間帯というのが素晴らしいなと思いました。私共のアルバイトだとか責任者とか他の業務をされてからいらっしゃる方がいるんですけど、子どもの教育というのは子育て経験があるというくらいで、就職されてから悩む方がすごく多いです。これは多分、ご存じない方がいらっしゃるんじゃないかと。こういう時間帯で出来ます資格が取れますという事をもうちょっと次の仕事をしたい方に行き渡れば、多分もっといらっしゃると思います。今子どもの現場に人が少ないというのはニュースでもわかっているので、こういう所に就職したい方はいらっしゃると思うんですよ。なので、いらっしゃる何かきっかけがあればいいんじゃないかなと私は思いました。ただ、確かに勤務されてから私どもは実習なく務める方が多いので、例えば保育者の方にワーツと言われたりすると怖くなっちゃう方がいらっしゃるのは本当にそうで、回転率がすごく多くなってしまってるんです。それは怖いことで、事前に勉強されて資格も持たれて来ていただけると、お歳をとってからの方が子どもたちの為にとって思うのが、変に企業で利益を上げようというよりはっていう方が、気持ちはそういう方が多いんじゃないかなと思うので、その辺がうまく伝わればいいんじゃないかなと思いました。

川田委員長代理

石橋先生、現状で学生さんの募集活動というところはどのように、例えば Web ですとか HP ですとか、その辺をお話しいただいてもよろしいでしょうか。

石橋

HP 等でイベントの訴求はさせていただいていますし、後は Web 広告系ですね。最近ですと SNS 系の若者中心に獲得できますので、そういったところに対応しております。インスタグラムですとか YouTube・TikTok・X あたりは定期更新させて頂いてます。

小畑委員

私は教育現場のところにまで目が行ってなくて、実際に保育園とかとの関りは深くて。なぜかといいますと、子どもが6人いまして、保育園に十何年も携わってお手伝いなどしてましてようやく下の子が来年小学校一年生になるので私も卒業だなと思ってるんですけど。すごく教育現場でもいいことをしてるんだな、苦労してやっ

んだなという所ですけども、その中でも退学率という所も非常に今年は改善してますし、いい方向に向かってるんじゃないかと思うので、どうやって学生を集めていったらいいのかというところだと思うんですけど、私の中では3つ上がりました。一つは職業理解をちゃんとしていく。なんでそこが大事かというと、私もガイダンスとかにも多くいってるんですけど、ガイダンスに行く人は事務系の人が多いんですよ。1年生・2年生に対して募集が始まっているところではあるんですけど、学生たちの目指したいまだ決まっていない学生たちが多い中で職業的な理解がされてないままに学校のいいことだけを勧めちゃうので、学生たちがよくわからない状態で学校に入ってしまうという所が、後々の退学率という所に繋がっていくと思う。その中でも非常に目につくのは類似校の中で、どこはダメだよとかこういう職業はこうだよという事を専門家ではない人が自分たちの学科を勧めたいがために他の学科を悪く言うというのは多く現場ではあります。1年生・2年生に関してはちゃんとした話を学生に教えていかなくちゃいけないよねっていう所が課題になっているところなんです。私どもの学校でも業者と手を組んでやっているところとしては1年生・2年生に対するガイダンスに関してはしっかりと職業の理解させるようなガイダンスを行ったらいんじゃないかという事でそういうような内容を行っています。例えば医療分野・スポーツ分野で幅広く学生を集めて1年生・2年生に対してスポーツにはこういうような職業があるよねこういうような職業に対してはこういうようなメリット・デメリットがありますよというところをしっかりと学生に教えていく。そこに関して興味を持ったところの学校をちゃんと聞くようなシステム。ようは学校を聞く前の段階という所をしっかりと請け負ってやっていくという所が大事なんじゃないかなと思います。あとは、1年生・2年生に対してはイベントとかです。実際にインスタとか HP で流してると思うんですけど、直接会ってしっかりとその辺は1年生・2年生に対してはイベントをもって職業理解させていく、しっかりとした職業だよというふうな楽しさを含めて教えていくっていう所が大事なんじゃないかなと思います。

二つ目として、専門学校と大学の差別化を図ってかなくちゃいけないと思います。その差別化の中で専門学校で大事なものは、やっぱり良くも悪くも自由度があるところだと思うんですよね。大学というのは研究機関でもありますので、まず一つは学生と多くかかわれるというのが専門学校の特徴であるんですけども、特にもう一つ差別化を図れるとしたら、例えば児童養護施設とかそういう所に多くの就職先が生まれてる現状があるのであれば、例えばですけども作業療法士ともうちよっと多く手を組んで精神面とかそういうふうなところに関してのアプローチっていう所に関してもこの学校では特徴的ですとか。いろんなそういうような現場の多職種の人達の知識を得て教育課程に取り組んでいますとかいうような、例えばですけども大学では行えないような専門学校ならではの差別化を図っていくという事が一つ特徴的なところとしては、作っていけるんじゃないかなと思う所です。

最後に三つ目としては、20代とか30代が多くいらっしゃるので、職業訓練所とかそういうところにアプローチは加えてると思うんですけど、先ほども言ったようにイベント的なものなのか若しくはそういう風なほかの何かがあるのであれば、募集のところにに関して直接的な募集的なところも何か考えて実行していくことでもうちよっとその辺の来校率が増えていくんじゃないかなとは思いました。

川田委員長代理

職業理解の機会を得られていくという所で、高校生の方に向けてのオープンキャンパスという所が一つ課題になろうかと思いますが、例えばオープンキャンパスでこういった仕組みを理解の場ですとか、保育の楽しさですとかそういったものを伝えていくというような内容で進められたりされている事ってございますか。

石橋

今、高1高2でやれていることが2点ありまして、1点目が学校内のイベントで、先ほどおっしゃっていただいたような「職業のまるわかり講座」みたいな部分で紹介させて頂いています。保育園と幼稚園だったり施設系だったりの部分もしっかりとご理解いただくというイベントで、高1高2、高3も含めてなんですけど、その中で高1高2は一定数は来ているかなと思いますが、より促進が必要かなと思っております。2点目はまだまだ不足していてこれからなんですけど、今高校の方に今年度3~4校に行って、1年生2年生対象に職業理解と言いま

すか、授業としての保育のご紹介とあとは今回は初でしたが先輩と一緒に連れて行って先輩が保育の体験をして頂ける用意して促進という形で進めているという所で今後も広げていかなきゃなという所で考えております。

川田委員長代理

年に何回程オープンキャンパスはされているんですか？

石橋

相当数やっています。毎月土日のどちらかでやっておりまして、平日は基本的に週 4 日程度は個別相談とか随時やっておりますので、それを合わせると月に20とかやっています。社会人が多いですので、土日に来れない方も多いので平日の昼もそうですし、夜間も間口を広げてお越し頂けるような体制を取っております。

川田委員長代理

専門学校と大学の差別化のところですけども、実際に例えばいわゆる施設系に就職される学生さん向けの授業というのか、精神面ですとか心理に関する事ということなんですが、具体的にはこういったところの授業内での学生さんへの説明というようなことはどの程度されていらっしゃるのか。教えていただけますか？

東郷

グループ校と手を組むともっと広く本校の特色を打ち出して、例えば児童発達支援の現場で作業療法と理学療法切っておりますので、本校で保育士資格、そこだけで現状は完結してしまっているんですが、OT と言われる方々との連携を図る中で、もう少し特色を出せるんじゃないかというようなご提案自体が出てはいるけれども何も現状は動いていないという様子です。今できていることとしてはですね、グループ校で連携というのは一切なくて、学校ごと、本校で言いますと現場と手を組んでという所で、見学であったりボランティアであったり受け入れをお願いして、大学との差別化としてはそこだとまだ弱いと思いますが、個々の学生さんに送り出しというのが学校が絡まないと社会的養護の現場というのは、なかなか見学一つ難しいので、かなり一人一人に沿って現場に送り出しをしてそこを支えているという取り組み自体は行っております。

川田委員長代理

個人的には専門学校さんの特徴の良い点というのは、やはり一人一人に親身になって就職支援をされるころだと思ってまして、色々保育養成校の大学さんを回っていると自分で自力で何か探してきて頑張りなみたいなそういうような事をよくお聞きしますし、そういった面では身近に先生が学生さんをよくご覧になっていて、その支援がしっかりされているという所が専門学校さんの良い特徴なんじゃないかなと思います。最近、就職支援で谷村先生とよく一緒にいるんですが、すごく学生さんの為にどういう支援がいいのかっていうのをすごくよくお考えになってらっしゃいますので、そういった面で私たちも何か出来ることがあったらさせて頂きたいなと思っております。

中嶋委員

幅広い年齢、保育士になる方々の年齢も色々変わってきてまして、今増えているのが 40 代後半から 50 代の男性が保育士資格を取って就職してくる方がバタバタと増えてきて、その方々に「なんで？」と聞いたら、ずっと企業戦士で働いてきてらっしゃって家のローンも終わってきたし子どもの学費もかからなくなったので、後は好きなことをやりたいんだと言って保育士になった人が増えてきたというのがありました。

諏訪委員

私もそれが言いたかったんですけど、企業の為にどうかではなくて子どもたちの為に地域の為についていう方が本当にいらっしゃるんで、今若い人も少なくなっているんで高校卒業生を集めるのもいいですけども、そこにもちょっと目を向けるといいんじゃないかなと思いました。大学は今、とりあえずみんな大学に行っておこう、何やるかわかんないけどという若者が多い中で、そういうことが終わってからやっぱり何が本当はやりたかったかっていう人が出てきている。そこでもう一つ思ったのが、認定絵本士っていうのが特徴かなと思ってまして、私どもでは配慮が必要なお子さんとかっていうと、専門家はいいんですけども絵で してあげるとか、そういうのが一番重要だとアドバイスで聞いているんですが、本はきっと生きてくるはずなんじゃないかなと、そういう意

味でこちらでもこういう資格を取らせているのかなと思うんですが、これは普通の主婦の方の趣味にも OK などで、ここでこれも取れますよと、しかも子どもたちの為にもなりますよっていうのは、こちらの学校の売りになるのではないかなと思っておりまして、私もこういう資格を持った人がうちの職場に来て下さるとすごく子どもたちにとってもいいかなと、今配慮が必要なお子さんが多いんですよすごく。その辺も売りに出来るんじゃないかなと思いました。

小畑委員

保育士というニーズは高まっているんじゃないかと僕は思っていて、実際子どもの数は減っていても私たち養護のデータで行くと発達障害とか不登校とかそういう何かしら問題を抱えた子どもたちというのは実は平行線上なんですよ。子どもは減ってもその数は減ってないんですね。そういうふうな子たちに対してのケアっていう所に関しても、今我々医療の理学療法士も作業療法士ももっともっと関わっていかなくちゃいけないという所で、今小児分野にどんどん移行してる療法士が結構多いんですね。そういった中でも保育的な知識がないので、保育的な専門家っていうのは必須になってくるんじゃないかなと思ってます。という意味では医療のところでもいい連携が今後も取っていけるんじゃないかなというふうなところでもあるので、そういう意味では保育士のニーズという所に関してはもっと医療の分野とかそういう所にでももっともっと活躍する場という所は増えてくるんじゃないかと私は思っているんで、そういうふうな意味合いも込めてそういう人材をもっと増やしていけるような活動というか私も何かしらお手伝い出来たらなと思っています。

川田委員長代理

合理的配慮の必要な学生さんですとか、そういったご相談は非常に最近受けるようになりまして、そういった方々にどういうご指導なりですとか説明の仕方ですとか、今小畑先生がおっしゃったような医学的な観点からどのような様に支援していくのかということもそういったところが受け入れ側としてきちんと溝と言いますか対応できるようなことがあると、そういった学生さんも安心して入学されるんじゃないかなと。先ほどお話があったんですけど、高校時代に学校に行けなかった学生さんですとかそういった方も増えているとお聞きしていますので、そういった方にも安心して入学できるようなそういったことも医学的なことも含めましてあるといいなというふうに感じました。

以上、終了時間となり、散会となった。